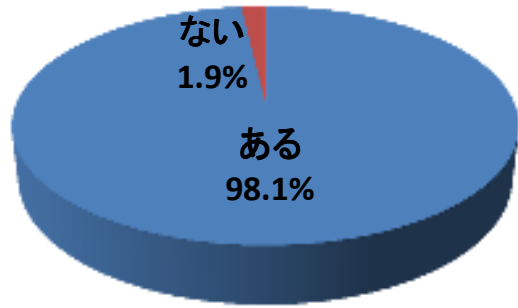
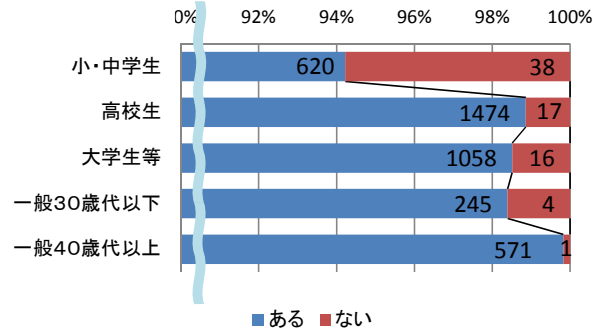


(別添2)

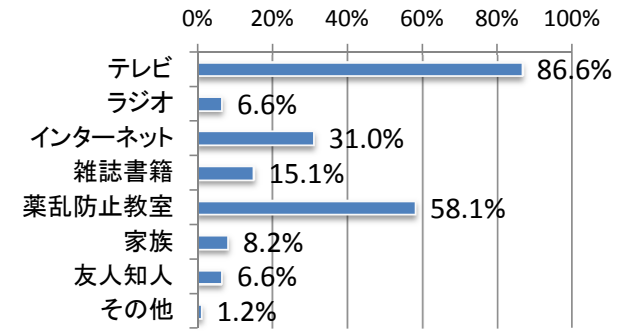
質問1 「危険ドラッグ」という言葉を聞いた経験(全体)



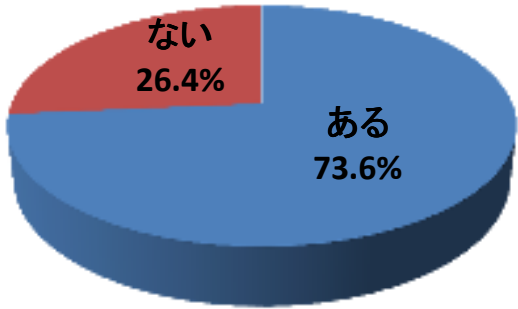
質問1 「危険ドラッグ」という言葉を聞いた経験(年代別)



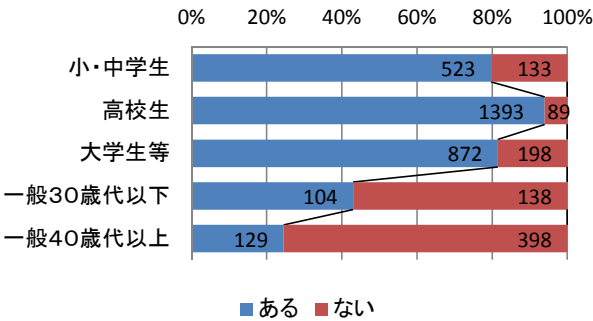
質問2 「危険ドラッグ」という言葉を聞いた場所(全体)



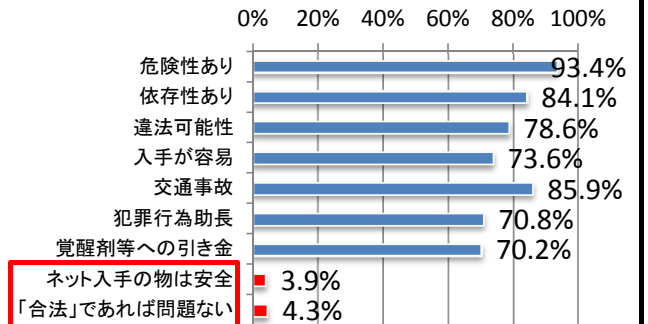
質問3 危険ドラッグ関係講習の受講経験(全体)



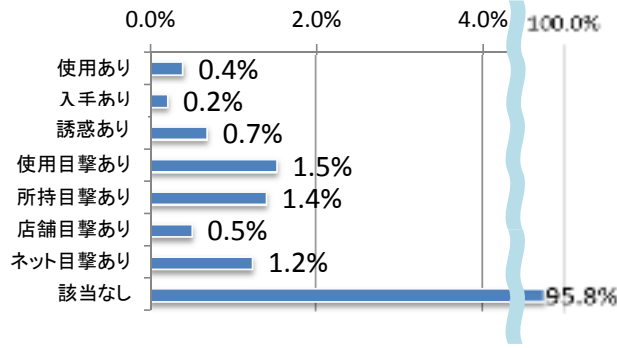
質問3 危険ドラッグ関係講習の受講経験(年代別)



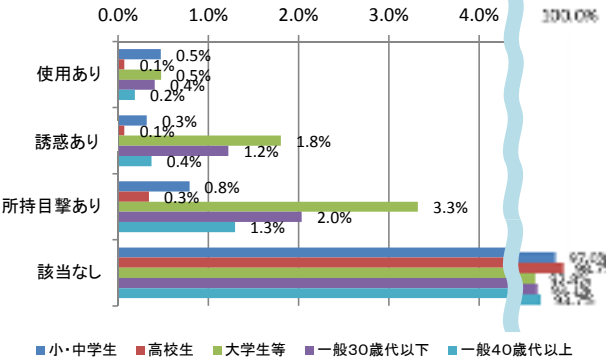
質問4 危険ドラッグに対する認識(全体)



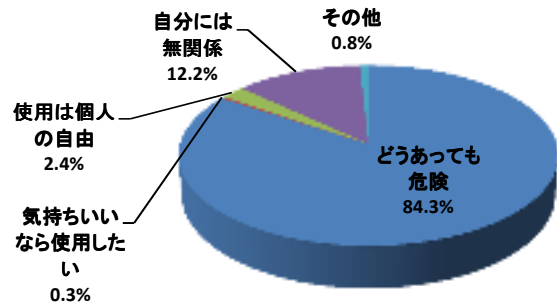
質問5 薬物の使用・誘惑経験(全体)



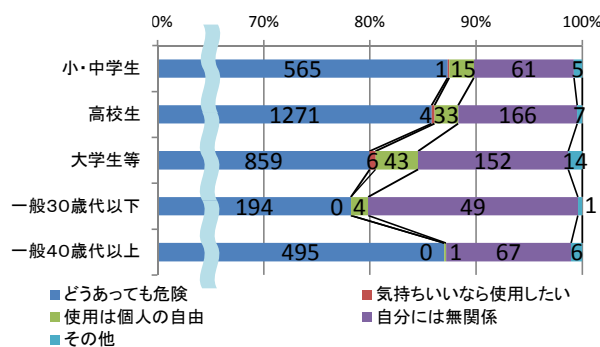
質問5 薬物の使用・誘惑経験(年代別 一部)



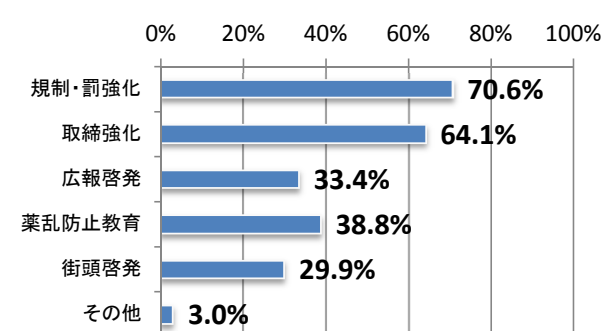
質問6 危険ドラッグ使用に対する意識(全体)



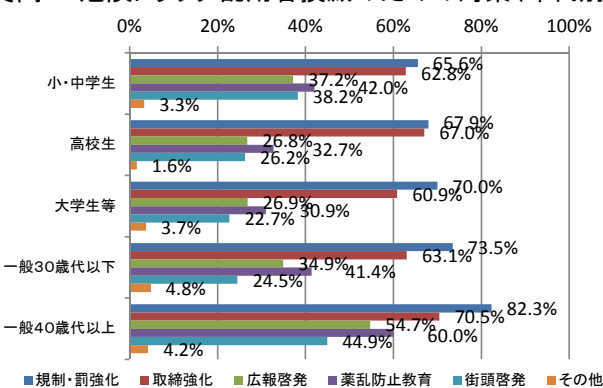
質問6 危険ドラッグ使用に対する意識(年代別)



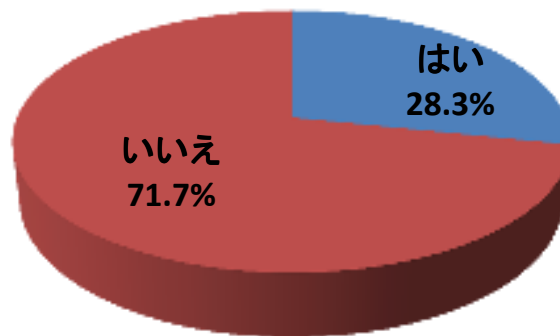
質問7 危険ドラッグ撲滅のための対策(全体)



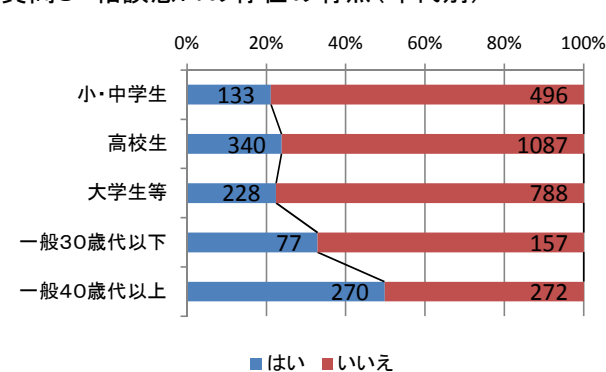
質問7 危険ドラッグ乱用者撲滅のための対策(年代別)



質問8 相談窓口の存在の有無(全体)



質問8 相談窓口の存在の有無(年代別)



○危険ドラッグに対する認知度は高く、主にテレビ、インターネットのほか、薬物乱用防止教室などで情報を得ている。
 ○危険ドラッグの危険性に関する講習の受講経験は学生が高く、学校での薬物乱用防止教室が一定の貢献をしている。
 ○危険ドラッグの危険性に関する認識は高いものの、一部、誤った認識を持っている人も見受けられた。
 ○危険ドラッグの使用の経験がある人は0.4%、誘惑を受けた人は0.7%、所持している人を見たことがある者は1.4%であり、特に大学生、30歳代以下(学生除く)はその割合が高い。
 ○危険ドラッグの使用に対する意識については、全回答者のうち、84.3%が「理由はどうあれ手を出すのは危険」と答えたが、2.7%が「気持ちが良くなるのなら使ってみたい」「使うのは個人の自由」と、危険ドラッグの使用に寛容な意見が一部で見られ、特に、大学生、30歳代以下(学生除く)に多かった。
 ○危険ドラッグ乱用者撲滅のための対策として、規制・罰の強化、取締の強化を挙げる人が多かった。また、教育、啓発の充実を挙げる人も、40歳代以上を中心に比較的多かった。
 ○保健所等の相談窓口は、薬物乱用防止の観点から、一般的な相談に広く応じるものであるが、若年者を中心に相談窓口の認知度は十分とは言えず、今後、あらゆる機会をとらえて広く周知する必要がある。